

特別重点化資金成果報告書（学生国際学会等参加）

2012 年 4 月 9 日

申請 責任者	所属・資格	物質生物科学科 准教授	氏 名	佐藤 香枝
-----------	-------	-------------	-----	-------

学生	
所属・学年 (学籍番号)	理学研究科 物質・生物機能科学専攻 博士課程前期 1 年次
氏 名	原田 万里江
会議等名称 (開催場所)	The 15 <sup>th</sup> International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences (Seattle, USA)
出張期間 (開催日程)	平成 23 年 10 月 2 日～8 日 (10 月 2 日～6 日)
交 付 額	269,000 円
執 行 額	251,075 円

出張の概要（1,500 字程度）

原田万里江は上記の通り行われた The 15<sup>th</sup> International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences (MicroTAS) に参加するため、2011 年 10 月 2 日より直行便でシアトルへ向かい 2 日から 6 日にかけて行われた口頭講演を聴講、およびポスター発表を行った。

10 月 2 日に成田空港から直行便でシアトル・タコマ空港に到着し、列車にて会場に向かった。

10 月 2 日から 6 日にかけては口頭講演およびポスターセッションに参加し、発表とディスカッション等を聴講した。口頭講演およびポスターセッションではバイオ分析、化学分析問わず様々な分野に関連したマイクロ分析システムについての講演や、マイクロデバイス作製のための新規材料について報告したポスターなど、マイクロ分析システム構築のための最新の知見を多く得ることができた。また、当該学生の研究テーマである **Optofluidics** に関連する研究においても、光異性化物質をデバイスに塗布し、微小液滴の操作を行う研究や、LED を用いたマイクロクロマトグラフィに関する研究など、修士での研究を進めるにあたっての多くの知見を得ることができた。参加者とも積極的にディスカッションを行い、当該学生の研究に活かすことのできる多くのアイデアに触れることができた。

10 月 3 日に行われたポスターセッションにおいて、当該学生は「**Photoresponsive Optofluidics and Light-induced Microflow**」というタイトルで発表を行った。新規物質である光分解性界面活性剤を用いたマイクロ・ナノ流体の液体駆動法について報告を行ったところ、二十数名ほどの参加者とディスカッションを交わすことができ、研究の立ち位置や光誘起張力変化における新たな問題点について再認識することができた。また、当該学生の研究分野である **Optofluidics** に関連する研究者も多く参加していたため、研究を進める上での有用なアドバイスを多く得ることができた。

10 月 5 日夜には **EMP Museum** にて行われた懇親会にも参加し、参加者とのコミュニケーションを深めることができた。

学会終了後の 10 月 7 日には列車にてシアトル・タコマ空港に向かい、7 日発の飛行機に乗り、日本時間 8 日朝に成田空港に到着後、解散、帰宅した。

